

○”International workshop on Ownership, Management Control and Family Business”

国際ワークショップ「同族経営とガバナンス」

開催責任者 ビジネス研究科 澤木勝茂

2011年9月1、2、3日

南山大学名古屋キャンパスJ棟1階特別合同研究室



ワークショップは以下のとおり、開催された。

◇報告者および題目

9月1日（木）

- Departure to Mazak Factory
- Departure from Mazak Factory
- Reception at Nanzan University

9月2日（金）

- Opening Remarks: Keiichi Kubota (Chuo University)
- Keynote speech: Joseph P.H. Fan (The Chinese University of Hong Kong),
“Overview of Current Family Business Research”
- Special Lecture 1: Milton Harris (University of Chicago) and Artur Raviv
(Northwestern University), “Principles of Agency Theory”
- Research Presentations
 1. “Family Business and Corporate Social Responsibility
in a Sample of Japanese Firms”
 2. “An Empirical Analysis of Corporate Behavior and

Performance of Family Firms”

3. “Management Ownership and Corporate Bankruptcy: The Role of Corporate Reorganization Law in Japan”

- Panel Talk “Current Ongoing Research in Family Business Studies”

9月3日（土）

- Special Lecture 2 Milton Harris (University of Chicago) and Artur Raviv (Northwestern University), “Governance of Family Businesses”

- Research Presentation

4. “Stock Option Grants and Managerial Risk Taking: Evidence from Japanese Stock Market Return Data”

- Closing Remarks: Prof. Katsushige Sawaki (Nanzan University)

◇ワークショップの討論内容

9月1日（木） 山崎マザク株式会社美濃加茂工場を見学し、同社取締役西村氏より同社の企業理念と創業者の精神について説明を受けた。その後、参加者との質疑応答を行った。なぜ株式を上場しないのか、海外戦略、同族経営とガバナンスなどについて意見交換した。

9月2日（金） J.Fan 教授よりファミリー・ビジネス研究の現状について説明があり、M.Harris 教授よりエイジェンシー理論によるガバナンスとファミリー・ビジネスの関係について報告があった。午後は、竹原教授（早稲田大学）と井上教授（慶應大学）から同族経営の日本企業についての実証研究の報告があり、上場企業とファミリー企業の業績の比較が報告された。これについて、Yupana 教授（シンガポール国立大）のコメントがあった。次に、Management Ownership and Corporate Bankruptcy について内田教授（九州大学）より報告があった。最後に、浅羽教授、Yupana 教授および Mehron 教授の3人によるファミリー・ビジネス研究のフロンティアについてパネル討議をおこなった。

9月3日（土） M. Harris 教授による特別講演「Governance of Family Business」が行なわれ、1つの数理モデルが紹介された。情報の非対称性やインセンティブの観点から質疑応答があった。最後の講演として、内田教授（九州大学）より Stock Option and Managerial Risk Taking について研究報告があり、Pavabutr 教授（タマサート大学）コメントがあった。国際ワークショップを終えるに当り、澤木教授（南山大学）が閉会の挨拶を行った。

参加者人数 1日目25名、2日目37名、3日目35名

◇研究成果発表

今回の国際ワークショップにおいて発表された論文は、査読を経て論文集を発行する予定である。